



平成30年9月17日 多職種勉強会の様子

安心のまちづくりのために

第41回

高齢者の暮らしを考える

インタビュー

薬剤師と

多職種連携について

薬の専門家である薬剤師。高齢社会に必須の在宅医療において、薬剤師の役割とはどのようなものでしょうか。

高齢者は複数の病気を抱えていることが多く、それに伴い服用する薬剤も増加しています。

在宅医療では薬の管理や、処方に応じた正しい薬の服用ができることがとても重要になります。在宅医療に関わる多職種の方が集う勉強会にて、お話を伺ってきました。



(写真左から)

松阪市地域包括ケア推進会議 多職種勉強会部会
部長 黒井 建志さん(歯科医師)
松阪地区薬剤師会
理事 西美香さん(薬剤師)
松阪市地域包括ケア推進会議 多職種勉強会部会
部長 木村 圭佑さん(理学療法士)

高齢社会における 薬剤師の役割について 教えてください。

【西さん】

薬剤を正しく服用することで上手に病気と付き合っていけると考えています。多くの病状をかかえる高齢者は複数の薬剤が必要になりいくつものリスクを抱えています。飲み間違いや飲み忘れ、嚥下機能の低下、また今回の勉強会のテーマにもなっているポリファーマシー(有害事象の発生しうる多剤服用)があります。例えば、整形外科で腰痛に痛み止めを服用中の方が、市販の頭痛薬を購入して飲んでしまい鎮痛薬の副作用が出てしまったりすることは身近にある事ではないでしょうか。医師をはじめとする患者さんにかかわる多職種と私たち薬剤師との連携が、ポリファーマシーを直し患者さんのリスクを事前に回避することにつながります。多職種連携によって多くの情報を共有し、服薬指

【木村さん】

それぞれ職種が普段の業務で気付いたことを共有するだけで、もっと密なサービス提供ができると感じました。必要なだけの薬剤を正しく服用することを、患者さんを中心に多職種で支えていきたいです。

【黒井さん】

それぞれの職種が患者さんに関わるなかで気づいた変化を多職種に伝え合う、これが専門家である我々にとって必要であり、在宅医療の力ぎを握っていると思います。住み慣れた自宅で元気に過ごしてもらうために連携を進めていきます。

【西さん】

薬剤師は薬の専門家として処方調剤や一般販売だけではなく、訪問薬剤管理やかかりつけ制度の導入などを通して健康のアドバイザーとして地域の皆様と寄り添っていきたく感じ思っております。